

## 平成28年度 名古屋市立工芸高等学校 学校評価について

### 本校の教育目標

自分の道を、自分で考え、自分で選択し、自分で歩いていく生徒を育てる

### 本校の教育方針

- ① 広い視野と豊かな感性の育成
- ② 基礎的・基本的な知識・技術や技能の習得
- ③ 自律的に生きる人間の育成
- ④ 公共のために尽くす心、人権を尊重する心の育成
- ⑤ 社会的マナー・モラルの育成
- ⑥ 心身共に健やかで活力のある人間の育成

### 平成28年度重点目標について

#### ① 魅力と特色ある工芸高校の

##### 将来構想の構築

100周年以後のSI(スクールアイデンティティ)、教育目標を構築し、平成29年度に100周年記念式典において市民に公表する。

#### ② モノづくりによる問題解決能力の育成

1年生で全科共通にデザイン思考の育成を図っている。また、アクティブラーニング等の手法を生かした授業を推進した。

#### ③ 部活動、競技会で高い目標を設定し

##### 挑戦する意欲の高揚

技能五輪全国大会に9名の選手が多数の業種に出場。WEBデザイン部門で、敢闘賞を獲得。29年度は上位入賞をねらう。

#### ④ 産学官・地域連携を強化した

##### 市政貢献の推進

地域との連携により、市政貢献を図った事業を多数実施。29年度は「KOGEI DESIGN OFFICE」を設置し、外部の依頼を組織的に対応する。

#### ⑤ 高度な知識、技術・技能を習得し、

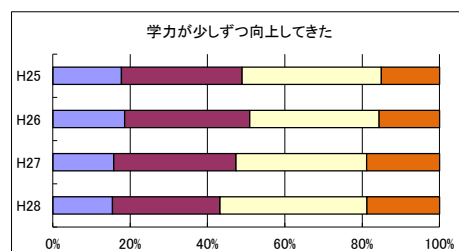
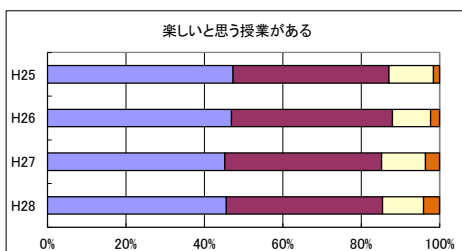
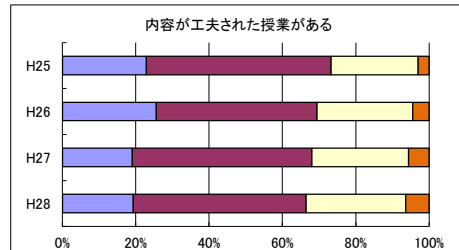
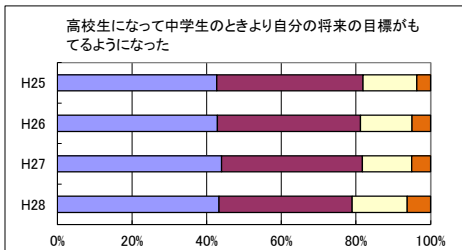
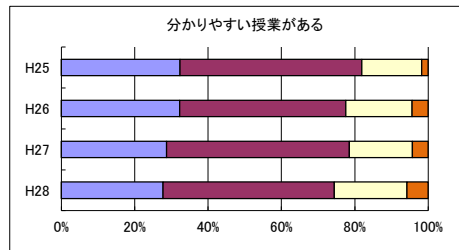
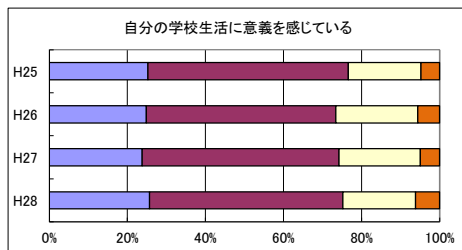
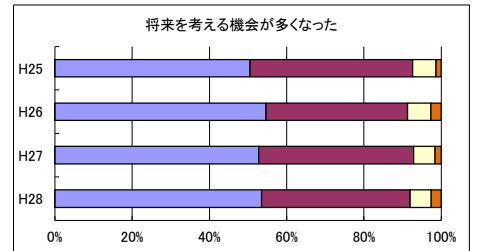
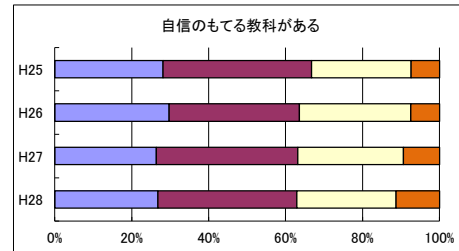
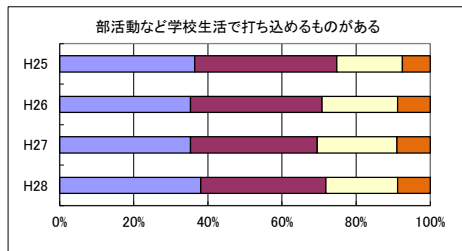
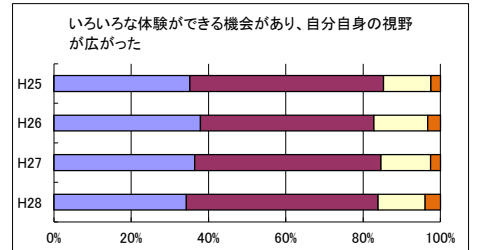
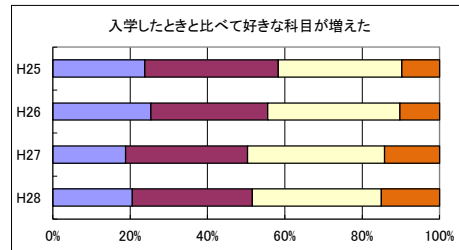
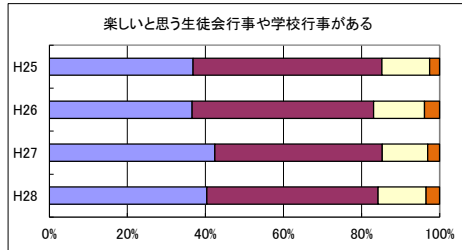
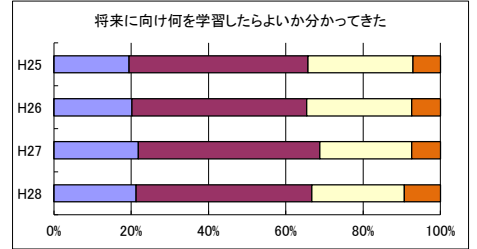
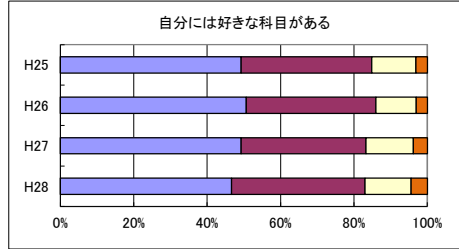
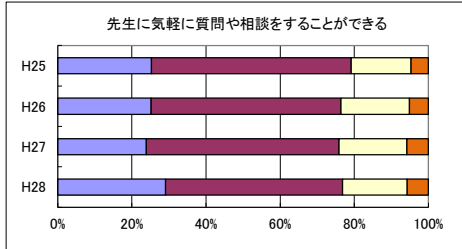
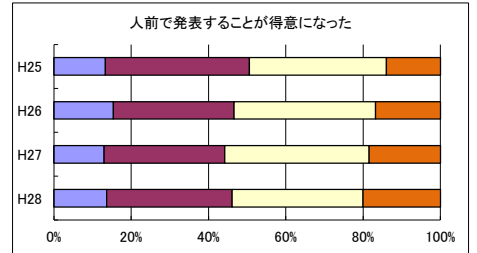
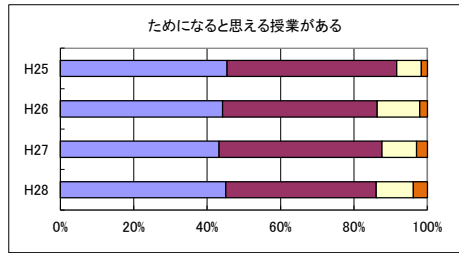
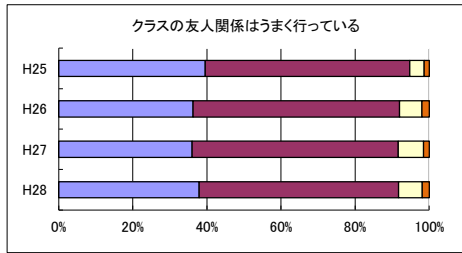
##### 高い進路目標を実現

工芸版デュアルシステムを取り入れ、授業後・長期休業日を利用し、企業で高技能の習得を行った。技能検定や競技会で大きな成果を得るとともに、企業からも大変よい評価をもらった。

### 100周年に向けた魅力と活力ある工芸高校を目指して

平成29年度に100周年を迎える本校は、次の100年を目指して、将来ビジョンの構築を始めている。グローバル化への対応、探求型学習の推進、アクティブラーニングへの対応や、産学官・地域連携を推進しながら、本校の特色でもあるデザイン教育の充実を図る。校内に「まちのデザイン事務所 KOGEI DESIGN OFFICE」を設置し、外部からの依頼を積極的に受け入れていく。

学校生活アンケート(全校) 平成25年から28年度の比較



凡例

- とても思う
- まあ思う
- あまり思わない
- まったく思わない

平成28年度 各校務分掌重点目標の成果・課題

分掌	重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
総務	委員会・各種教育の充実	事務効率化に向け関係部署、専門委員会との連携の強化	A	<p>新入学者選抜にむけて早期対応と専門委員会との連携強化。</p> <p>広い視野と豊かな感性の育成のため、修学旅行検討委員会でH30年度の修学旅行の変更を実施。PTA活動の活性化。</p> <p>防災教育の強化(突然防災訓練・宿泊型防災訓練・帰宅支援キット導入)。</p> <p>人権感覚を十分身に付ける指導の充実(全クラス参加のスローガン作成)。</p> <p>現職教育の活性化(コーチング)。</p>	<p>更なる専門委員会との連携強化、設備の新規導入や更新の推進を図るとともに、修繕業務の充実</p>
	情報管理の充実	校内ネットワーク設備の充実、校務用PCの整備、WEBサイトの更新	A	<p>VISTA問題に対する対応をおこない、今年度中に校務用ノートPCの完全更新完了。ノートパソコンセットアップ講座の開催。WEBサイトの充実による情報発信力の向上。</p> <p>ドイツ海外研修によるWEBサイトでの情報発信の協力。</p>	<p>サーバーの更新、リース化、校内ネットワークの複線化、校務用PCのリース化、ネットワークプリンタの更新、情報管理の徹底</p>
教務	校内の学習環境を整えるとともに、自主的な学習習慣の確立、積極的な学習集団の形成を促す	人権教育・主権者教育について、これまでの取り組みの中に位置づけるとともに、新しい実践を試みる。	A	<p>これまでの取り組みを主権者教育の中に位置づけることにより、日々の教育活動と主権者教育の関連を意識することができた。</p>	<p>授業内での学習内容の定着向上を目指し、主体的な学びを醸成・支援する環境を整備する。教員および生徒自身による学力課題の把握、学びと自身の成長の実感、学び直しの推奨と学習ツールについての情報提供、学習に対する動機づけ等を想定。</p>
	教育課程及び類系選択制度の検証を行うとともに、指導内容及び評価方法について各科における研究・実践を支援する	類系選択制度のあり方について、各科の進路目標に照らして、学校全体としての共通理解を目指す。各教科や学科で取り組むアクティブラーニング型授業の実践例を集約・共有し、より効果的な授業の研究を支援する。	A	<p>現行教育課程について検証を試み、検証方法や教育課程編成時の留意事項等の課題が見えた。アクティブラーニングについては校内の実施状況を把握し、教員間の情報共有や授業研究のきっかけづくりを行った。</p>	<p>次期学習指導要領改訂を見据えたカリキュラム編成の研究。生徒の進路希望に合ったカリキュラムマネジメントの計画に繋げる。</p>

分掌	重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
生徒指導	問題行動の早期発見・早期指導に努める	いじめアンケートの実施 生徒の生活環境の把握 いじめ対策委員会等による情報の共有 教育相談の実施	A	いじめアンケート、いじめ対策委員会を毎月実施した。 特別指導件数:2件	学科・学年会との連携の強化 遅刻の多い生徒に対する対処
	保健部、スクールカウンセラー、関係機関との連携を深め、教育相談の充実に努める	いじめアンケート結果に基づき、問題を抱えた生徒やその周辺に対し、指導部・保健部教育相談係が連携し聞き取りを行い、学校全体での対処方法について検討を行う	A	いじめアンケートの結果に対し、教育相談係が聞き取りを行い、学科、部活動顧問と連携し、支援を行った。 いじめ対策検討委員会の検討結果を全体で共有し、対処に努めた。	教育相談のさらなる充実を図る 関係機関との連携
進路	インターンシップ、デュアルシステムの充実にについて	就業体験委員会を開き、就業体験を進める。今年度は、就業体験報告集の内容等の見直しを行う。デュアルシステムの充実を目指す。	A	就業体験報告集の内容を改善することができた。具体的には、企業から頂いたアンケート内容の集約、就業体験から学んだ仕事の魅力についてのレポートをまとめることができた。デュアルシステムの充実につながった。	引き続き、就業体験を発展させて生徒の進路設計の一助になるように役立てたいと考える。今後の課題としてデュアルシステムを進路からのアプローチとして考えたい。
	学校と企業の情報交換を可能にするネットワークづくりの検討	学校と企業との情報交換を積極的に行う。また、産学官の情報交換ができるようなネットワークづくりを試験的に行ってみる。	A	はじめての重点目標課題であり、企業との情報交換はデュアルシステム受け入れ企業、求人を受けた企業、などを行った。また、企業のみならず、産学官の情報交換を国土交通省（中部地方整備局含む）、愛知県庁産業労働部、建政部、愛知県建設業協会、愛知県左官業協同組合、愛知県職業能力開発協会などと情報交換を行った。	今年度は、新しい取り組みということで、人手不足の建設業を中心に行ってみた。次年度は、製造業など別の業種への展開ができるように企業訪問なども含めてネットワークづくりを発展させたいと考える。
生徒会	生徒会執行部と各委員会の連携強化と委員会活動により、生徒主体の学校行事と生徒会活動を充実させる	・生徒主体で行事の企画・運営を行う。 ・委員長会等を行い各委員会の連携を図る。 ・執行部が各委員会に参加し連携を図る。	A	・夢チャレンジをはじめ、文化祭や球技大会など生徒主体で企画し運営することができた。 ・執行部が各委員会に参加し連携することができた。	執行部や各委員会とクラスとの連携をより強化できるよう生徒議会を充実させていきたい。
	部活動の環境整備と積極的な支援、活動報告の充実	部活動の環境整備に伴う予算措置を行う。	A	・部室まわりの清掃を行うことができた。 ・部活動の環境整備に対する予算措置により環境を充実させることができた。	引き続き部室まわりの清掃を行っていききたい。また部活動の試合や発表会の日程や結果などの広報活動を充実させていきたい。

分掌	重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
保健	健康的な生活習慣を身につけ、健康で明るい学校生活が送れるように指導・助言する。	保健委員主体とした保健だよりによる喚起。	A	保健委員を通じての全校生徒への健康管理の重要性を訴えることができ、保健室への内科的訴えの数が減少した。	来室者がクラス別で格差があり、多いクラスの分析・対応。
	カウンセリングルームの充実を図り、職員に対して障がいに対する理解や校内支援体制の充実化を図る。	カウンセリングだよりの内容の精選、早期話し合いによる情報の管理・共有の徹底。	A	相談方法に柔軟性がでて、早期対応ができた。職員全体の障がい認識も高まった。	情報管理・情報伝達の質をさらに高め、早期対応につなげていく。
図書	読書を通じて豊かな感性を育めるよう、図書の選定や広報活動など活発な図書館の運営に努める。	利用促進：図書オリエンテーション・図書だより・図書館通信(教室掲示)・書店見学会・生徒による選書・図書委員会の活性化	B	図書オリエンテーション1年生全クラス実施・図書館通信・だより発行・書店見学会2回実施・図書委員会の活性化(毎月定例で集まり、企画立案、実施)	昼休みも放課後も生徒が多く利用する図書館となっているが延べ利用者数は全校生徒約840人に対し210名である。より多くの生徒が図書館を活用し本を手にとってもらえる工夫を考えたい。
	工芸高校の学習センターとして、教科学習を支え、多様な興味関心に対応できる情報メディアを充実させる。	教員・生徒による専門書の選書・PCをインターネット閲覧ができる環境にする	A	通年教員・生徒からのリクエスト受付 教員に呼びかけ専門書の更新を実施・PCインターネット接続実現	幅広い分野の本の選定を教員・生徒とともに行ったが、まだ専門書が十分といえず、専門科のある学校としての図書館の魅力をよりたかめていきたい。
工務	効果的な学技広報イベントの検討・実施	学接見学会・チャレンジ教室等の催し物を検討するにあたり、従来の形にとらわれない新しい提案をしていく。広報企画部と連携し、各種催し物の効果的な宣伝方法を検討する。	A	学校見学会をKOGEI EXPOとリニューアルとし、これまでにない新しい形で実施し、中学生PRできた。 中学生に向けた案内やパンフレット等も刷新し、効果的な宣伝方法を検討できた。	学校見学会を新しい形で実施したことによって新たに生じた様々な課題に対し検討していき、より中学生にとって魅力的で楽しめるイベントとなるようにしていく。広報企画部との連携を密にし、よりPR力のある宣伝方法を検討する。
	産学官・地域連携事業の推進・統括	学科を横断した取り組みの充実を図り、単科ではなく学校として事業を進めていく。各種事業を統括する部門の設置を検討してい。実習室・実習設備率的な運用を検討し、各種事業に対応できる実習室を整備する。	A	まちのデザイン事務所「KOGEI DESIGN OFFICE」を立ち上げ、各種連携事業を推進する方向性を打ち出すことができた。 実習室の効率的な運用について検討し、共用設備等の整備も進めることができた。	「KOGEI DESIGN OFFICE」を軌道に乗せ、システムも順次整備していく。 共用設備を整えていくにあたり、メンテナンスについても考えていく必要がある。

分掌	重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
広報	安定した受検者確保のために情報を収集し分析する。	情報の収集 ・入試状況の分析 ・希望調査等の分析	B	限られた情報でおこうため、正確な分析が難しい。	H29年度入学生の入試の結果を分析し、次年度の広報活動などに反映するように計画をする。
	校外広報活動の企画・立案を行い、関係部署との調整を図る。	中学校訪問の企画・立案 ・上級学校進路説明会 ・上級学校訪問の対応 ・入学案内等の作成	A	現時点での広報活動は、人員や予算を考えると達成度は高い。	現在の広報活動の工夫や、他の方法を脅えることも必要である。特に中学校訪問については、入試状況を見て対応を考えていく必要がある。